

第2節 社 会

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

本資料は、中学校学習指導要領（以下、学習指導要領）及び同解説、埼玉県中学校教育課程編成要領（以下、教育課程編成要領）の趣旨及び内容を踏まえて作成したものである。各学校においては、地域や学校及び生徒の実態に即した指導計画の作成や、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得、思考力・判断力・表現力等をはぐくむための言語活動の充実、社会参画に関する学習の重視等に留意して学習指導を進めていく中で大いに活用していただきたい。

2 取り上げた内容

(1) 本資料の構成

本資料は、次のような項目で構成した。

○本資料の活用について ○年間指導計画例 ○単元の指導計画例 ○評価にあたっての配慮事項

(2) 単元の指導計画例

学習指導要領において、改訂された部分や特に強調された部分の中から、指導計画の作成と内容の取扱いで配慮する必要があると考えられる事項を重点的に取り上げた。

ア 地理的分野

○内容(1)「世界の様々な地域」 イ「世界各地の人々の生活と環境」 ウ「世界の諸地域」

○内容(2)「日本の様々な地域」 ウ「日本の諸地域」 エ「身近な地域の調査」

イ 歴史的分野

○内容(1)「歴史のとらえ方」 イ「身近な地域の歴史を調べる活動」 ウ「時代を大観し、表現する活動」

ウ 公民的分野

○内容(1)「私たちと現代社会」 イ「現代社会をとらえる見方や考え方」

○内容(4)「私たちと国際社会の諸課題」 イ「よりよい社会を目指して」

3 実践化への配慮事項

(1) 本資料の活用の仕方

本資料は、各分野の指導計画例を中心に記載した。この指導計画例を参考にして各学校の実態に応じて年間指導計画を作成されたい。また、本資料は教育課程編成要領と補完しあうものであり、教育課程編成要領とともに活用されたい。

(2) 各分野における内容の改善と取り上げた指導計画例について

ア 地理的分野では、世界の地理的認識を深めるため、世界各地の人々の生活と環境とのかかわりや世界の諸地域の多様性について学ぶ項目が設けられたことや、日本の諸地域における特色ある事象を他の事象と有機的に関連付けて地域的的特色をとらえることができるよう内容の改善が図られている。また内容の全体を通して、地図の読図や作図などの学習を通して思考力や判断力等の育成を図るとともに、身近な地域の学習で、諸課題を解決し地域の発展に貢献しようとする態度を養うことができるように改善された。これらを踏まえ、本資料では、四つの例を示した。

イ 歴史的分野では、我が国の歴史の大きな流れを理解させ、歴史について考察する力や説明する力を育てるため、各時代の特色や時代の転換の様子をとらえる学習などを通じて、歴史的事象について考察・判断し、その成果を自分の言葉で表現する学習を行う。その際、現代社会の理解が一層深まるよう近現代の学習を一層重視している。また、身近な地域の歴史学習などの中で様々な伝統や文化について学習させるとともに、我が国の歴史の背景にある世界の歴史の扱いを充実させる。これらを踏まえ、本資料では、二つの例を示した。

ウ 公民的分野では、現代社会の理解を一層深めさせるとともに、よりよい社会の形成に参画する資質や能力を育成するため、文化の役割を理解させる学習、政治、経済についての見方や考え方の基礎を一層養う学習、持続可能な社会という視点から環境問題や少子高齢社会における社会保障と財政の問題などについて考えさせる学習などを重視している。その際、習得した知識、概念や技能を活用して、諸事象の意義を解釈させたり事象間の関連を説明させたり、自分の考えを論述させたり、議論などを通してお互いの考えを深めさせたりすることを重視している。これらを踏まえ、本資料では、二つの例を示した。

(3) 年間指導計画例で取り上げた留意点等について

各分野ともに、「・指導上の留意点 ●言語活動の充実 ◇小学校及び他分野との関連 ○道徳との関連」を示した。

また、地理的分野では「※地理的技能」、公民的分野では「※対立と合意、効率と公正の視点」もあわせて示した。

第2 指導計画作成のための資料

1 年間指導計画例

(1) 地理的分野

*各単元の下に数字は配当時数を例示したものである。

大単元	中単元	小単元 【時間】	小単元目標	主な学習内容	・指導上の留意点 ●言語活動の充実 ◇小学校及び他分野との関連 ○道徳との関連 ※地理的技能
(1) 世界の様々な地域 52	ア 世界の地域構成	世界の地域構成 【8時間】	○世界の諸地域を大観させ、地球規模での位置関係をとらえるための基礎的な知識や技能を身に付けさせる。	・地球儀や世界地図の活用 ・緯度と経度 ・大陸と海洋の分布 ・主な国々の名称と位置 ・世界の地域区分	・地域区分は、州やそれらを幾つかに区分した地域名などを取り上げる。 ・世界の4分の1から3分の1程度の国々の名称と位置を身に付けさせる。 ・主な国々の選択は、適度に世界に広がって分布するように配慮する。 ・生徒の関心を引き出す指導を工夫し、地名や地図への関心を高める。 ◇世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置 [小5(1)ア] ◇我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子 [小6(3)ア] ※地球儀や世界地図の長短に留意しての読み取りを中心とし、様々な世界地図が掲載されている地図帳の適切な活用方法を身に付ける。 ※地図上の位置を緯度・経度を用いて表せるようにする。 ※六大陸と三大洋の大きな形状と位置関係をとらえる。 ※世界の地域区分や国々の名称と位置などを基にして、世界の地域構成をとらえ、大まかに世界地図を描けるようにする。
		イ 世界各地の人々の生活と環境 【12時間】	○世界各地の人々の生活の様子を、衣食住や宗教とのかかわりを中心に、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活と環境の多様性を理解させる。	・人々の生活の様子とその変容 ・生活と宗教とのかかわり	・自然条件の違いのみでなく、社会的条件にも着目して学習を進める。 ・同じ地域の過去と現在の生活を比較してその変化に着目し、人々の生活が可変的なものであることに気付かせる。 ・過度な一般化を避け、特定の民族に対する固定観念をもたせる学習とならないように配慮する。 ・多様な文化を尊重する態度を身に付けさせる。 ◇世界の古代文明と日本の国家の形成 [歴(2)ア]、世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置 [小5(1)ア]、我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子 [小6(3)ア] ○4(3) ※写真や映像資料などを活用する。様々な主題図を活用する。 ※取り上げた事例を主題図上に位置付け、比較する。
	ウ 世界の諸地域	ア アジア 【4時間】	○アジアの人口問題の出現や多様な民族構成、文化形成の背景からアジアの地域的特色を理解させる。	・人口急増地域の分布 ・民族や宗教分布	・世界の各州を対象として、それぞれの州内に暮らす人々の生活にかかわり、かつ我が国の国土の認識を深める上で効果的な観点から州内の特色ある地理的事象を基に主題を設定し、その追究を通してそれぞれの州の地域的特色を理解させる。 ・主題については、州の地域的特色が明確となり、かつ我が国の国土の認識を深める上で効果的であるという観点から設定する。また、州ごとに異なるものとなるようにする。 <主題> アアジア 「人口急増と多様な民族・文化」 イヨーロッパ 「EUの発展と地域間格差」 ウアフリカ 「モノカルチャー経済下の人々の生活」 エ北アメリカ 「大規模農業と工業の発展」 オ南アメリカ 「森林破壊と環境保全」 カオセアニア 「アジア諸国との結び付き」
		イ ヨーロッパ 【4時間】	○EUを構成する国の相互関係や地域内格差の実態からヨーロッパの地域的特色を理解させる。	・人々の移動 ・多様な産業が地域で展開している様子	・州ごとに様々な面から地域的特色を大観させ、その上で主題を設けて地域的特色を理解させる。大観する学習がなされた際には、概略的な世界像が形成できるように学習内容を構成する。 ●地図や地球儀から各州の地域的特色を読み取り、自分の言葉でまとめる。 ◇世界平和と人類の福祉の増大 [公(4)ア] ※地球儀、世界地図、衛星画像等を活用し、地誌的知識や概念の定着を図るとともに、学習成果を世界地図上や略地図上に表現する。 ※写真、物語、小説等の生活経験と結び付いた資料から地理的情報を見いだす。
		ウ アフリカ 【4時間】	○アフリカの脆弱な経済基盤とその理由からアフリカの地域的特色を理解させる。	・主要生産品 ・主要国の生産品と人々の生活との関連	
		エ 北アメリカ 【4時間】	○巨大な生産と消費の人々の生活様式から北アメリカの地域的特色を理解させる。	・米加の世界貿易に占める地位	
		オ 南アメリカ 【4時間】	○環境問題やエネルギー問題を地域に即してとらえさせ南アメリカの地域的特色を理解させる。	・アマゾンの森林破壊の実態	
カ オセアニア 【4時間】	○多文化社会が進むオセアニアの人々の生活の様子からオセアニアの地域的特色を理解させる。	・貿易品の量や額の動向 ・輸出入の相手国			
エ 世界の様々な地域の調査	世界の様々な地域の調査 【8時間】	○今までの学習で身に付けた知識、概念や技能を活用して、世界の地理学習のまとめとしての調査学習を行い、世界の地理的認識を深めさせるとともに、世界の様々な地域又は国の調査を行う際の視点や調べ方、まとめ方などの方法を身に付けさせる。	<p>[調査の視点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の伝統的な生活・文化と自然環境や社会環境、歴史的背景、他地域との共通性、異質性や結び付きなど。 <p>[調査の流れ]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①主題の設定 ②調査方法の吟味 ③資料の収集と選択 ④調査活動 ⑤レポートの作成 ⑥発表会などの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容(1)のア～ウの各項目で身に付けた知識、概念や技能を活用して、世界の地理学習のまとめとしての調査学習を行わせる。 ・ねらいを達成しやすい主題として、次のようなものが考えられる。 <ol style="list-style-type: none"> ①自然環境とかかわりの深い衣食住などの生活・文化とその変化の様子(主題例:気候と世界の衣装/世界のワインの産地) ②内容イ、ウで学習した興味や関心のある地理的事象をさらに追究する(主題例:大陸の東西に位置する大韓民国とスペインとの比較/世界の国旗と国名の由来) ③教科書や地図帳、各種の地図や文献などから発見した、世界の人々の生活に関する興味ある地理的事象を基にしたもの(主題例:世界各地の異常気象/日本の国際協力) ④日常生活や新聞、テレビなどで関心を抱いた世界の国々に関する地理的事象を基にしたもの(主題例:世界の人口問題/折り込み広告にみる食糧輸入国日本) ●様々な資料を的確に読み取ったり、地図を有効に活用して事象を説明したりする。また、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりする。 ◇我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子 [小6(3)ア] ※調査の方法として、調査の対象が直接経験地域ではないことから、各種の地図や統計、百科事典、インターネットからの情報、DVDや写真、読み物や紀行文など、主題にふさわしい適切な資料を選択し、読み解き、関連付けながら進める。 	

	ア	日本の地域構成 【8時間】	○世界的視野から国土の位置や領域の特色を理解したり、他の国との時差を調べたり、都道府県などに着目して様々な地域区分できることをとらえたりする学習を通して、国土の地域構成を大まかにとらえさせる。	・地球儀や地図の活用 ・我が国の国土の位置 ・世界各地との時差 ・領域の特色と変化 ・地域区分	・海洋国家の特色や領域をめぐる問題（北方領土など）にも着目させる。 ◇世界平和と人類の福祉の増大 [公(4)ア] ◇自分たちの県の地理的位置、47都道府県の名称と位置 [小3及び小4(6)ア] ◇世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土 [小5(1)ア] ※地図や地図帳に慣れ親しんで、都道府県庁名などの地名に関心をもち、その位置を確かめる。 ※大まかに日本地図が描ける。
	イ	(ア)自然環境から見た日本の地域的特色 【5時間】 (イ)人口から見た日本の地域的特色 【5時間】 (ウ)資源・エネルギーと産業から見た日本の地域的特色 【4時間】 (エ)地域間の結び付きから見た日本の地域的特色 【4時間】	○日本の地形や気候、海洋に囲まれた日本の国土の特色に関する特色を大観させる。 ○日本の人口と人口密度、少子高齢化の課題を理解させ、日本の人口に関する特色を大観させる。 ○日本の資源やエネルギーの消費の現状を理解させ、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を大観させる。 ○日本と世界との交通・通信網の発達・人々の移動や物流の様子を理解させ、日本と世界及び国内各地の結び付きの特色を大観させる。	・世界の地形 ・世界の気候帯 ・日本の地形 ・日本の気候区分 ・自然災害と防災 ・人口と人口密度 ・人口分布 ・少子高齢化 ・過疎、過密問題 ・エネルギーや鉱産資源の分布と貿易 ・エネルギー自給率 ・交通網 ・通信網 ・交通・通信網の整備	・世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げて、日本の国土の特色を様々な面から大観させる。 ・細部にわたる事項を扱わず、日本全体としての地域的特色を理解させる。 ・事例地域を通じた具体的な取扱いはいらない。 ●各種の地図、グラフ、統計等の複数の資料を関連付けて読み取りを行い、考察したり説明したりする。 ◇世界平和と人類の福祉の増大 [公(4)ア] ◇国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活 [小5(1)イ] ◇国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止 [小5(1)エ] ◇運輸などの働き [小5(2)(3)ウ] ※地図、グラフ、統計等の複数の資料を関連付けて読み取る。
(2)	ウ	自然環境から見た九州地方 【5時間】	○自然環境に関する特色ある事象を中核とし、人々の生活や産業との関係や防災対策の重要性を考えさせる。	・地形、気候 ・農業生産 ・自然災害と防災	・九州地方の地形や気候、自然災害が多い特色に着目させ、人々の生活や産業と関連付けて追究させ、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることについて考えさせる。 ◇国土の地形や気候の概要、自然条件 [小5(1)イ]
		人口や都市・村落から見た中国・四国地方 【4時間】	○人口分布や動態等に関する特色ある地理的事象を中核とし、人々の生活や産業との関係、過疎問題について考えさせる。	・過疎化と産業 ・過疎地域の生活	・中国・四国地方の山間部の人口の分布や動態に着目させ、人々の生活や産業などと関連付けて追究させ、過疎問題の解決が地域の課題になっていることについて考えさせる。
		環境問題や環境保全から見た近畿地方 【4時間】	○琵琶湖をめぐる環境問題や環境保全の取組を中核として、産業や人々の生活などとの関係や環境保全の取組の重要性を考えさせる。	・琵琶湖の環境問題 ・環境保全の取組 ・琵琶湖の水の利用	・琵琶湖の環境問題や環境保全の取組に着目させ、近畿地方の産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付けて追究させ、環境保全の取組が大切であることについて考えさせる。 ◇世界平和と人類の福祉の増大 [公(4)ア] ◇公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ [小5(1)ウ]
		産業から見た中部地方 【5時間】	○農業や工業の特色ある事象を中核として、自然環境や社会的条件との関係やその変化について考えさせる。	・中央部、日本海側の農業 ・地形、気候 ・太平洋側の工業 ・他地域との結び付き	・中部地方の太平洋側の工業生産額や中央部の果樹の生産額、日本海側の水田率等に注目させ、産業の特色を自然環境や消費地、原料供給地などの諸条件と関連付けて追究させる。 ◇農業や水産業、工業生産 [小5(2)(3)]
		他地域との結び付きから見た関東地方 【5時間】	○交通網に関する特色ある事象を中核とし、物資や人々の移動との関係、他地域との結び付きによる地域の変容について考えさせる。	・交通網とその変容 ・夜間人口、昼間人口とその変化	・関東地方の交通網の形状やその変容に着目させ、物資や人々の移動の特色や変化を関連付けて追究させ、他地域との結び付きの影響を受けて地域は変容していること等について考えさせる。
		生活・文化から見た東北地方 【4時間】	○伝統産業に関する地理的事象を中核として、自然環境や歴史的背景、他地域との交流との関係、都市化や国際化による生活・文化の変容について考えさせる。	・伝統産業 ・伝統産業保護の取組 ・地形、気候	・東北地方の伝統的な産業や保護の取組に着目させ、自然環境や歴史的背景、他地域との交流等を関連付けて追究させ、都市化や国際化による地域の伝統的な産業の変容を考えさせる。 ○4(9)
		歴史的背景から見た北海道地方 【5時間】	○歴史的背景や開発に関する特色ある事柄を中核とし、他地域との結び付きや自然環境との関係について考えさせる。	・地形、気候 ・農業の特色 ・市街地の形状 ・平野や台地の開発	・北海道地方の食料生産や大規模な農地、市街地の形状等から歴史的背景に着目させ、国内外の他地域との結び付きや自然環境などと関連付けて追究させる。 ◇殖産興業 [歴(5)イ]
エ	身近な地域の調査 【10時間】	○身近な地域の諸事象を取り上げ、観察や調査等の活動を通じ、身近な地域への理解と関心を深めて地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を養うとともに、市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法を身に付けさせる。	・大縮尺の地形図の読み取り ・野外観察や地域調査 ・分布図の作成 ・地域の課題 ・身近な地域の地域的特色 ・地理的なまとめ方や発表の方法	・社会参画の視点を取り入れた探究的学習を地理的分野の学習のまとめとして行う。 ●観察や調査の結果をまとめる際に、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換をしたりする。 ◇民主政治と政治参加 [公(3)イ] ◇自分たちの住んでいる身近な地域や市、地域の人々の生活 [小3及び4(1)、(5)] ○4(8) ※大縮尺の地形図や統計等の資料に親しみ、活用の技能を高める。 ※市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付ける。	

※第1学年において、地理的分野内容(2)アまで指導する。

(2) 歴史的分野 身近な地域の歴史として、「中仙道の宿場町」を(4)ウと関連させて取り扱う例

大単元	中単元【時間】	中単元の内容	主な学習内容	指導上の留意点 ●言語活動の充実 ◇小学校及び他分野との関連 ○道徳との関連	県内の学習素材
(1) 歴史のとらえ方 5	ア 我が国の歴史上の人物や出来事について【5時間】	○時代の区分やその移り変わりに気付かせ、歴史を学ぶ意欲を高めるとともに、年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解させる。	・年代の表し方 ・時代区分	・中学校の歴史学習の導入として、「時代区分やその移り変わり」に気付かせるようにする。 ・「年代の表し方や時代区分」の学習については、導入における学習内容を基盤にし、継続的、計画的に進める。 ◇人物の動きや代表的な文化遺産を中心とした小学校の歴史学習を活用する。【小6】	小学校で取り上げた人物や出来事
(2) 古代までの日本 17	〈課題意識を高める導入〉 ※小学校で学習した古代に活躍した人物や古代の年表などを提示し、興味をもたせる。				
	ア 世界の古代文明と日本の国家の形成【7時間】	○世界各地で文明が築かれ、東アジアの文明の影響を受けながら、我が国で国家が形成されていったことを理解させる。	・世界の古代文明や宗教のおこり ・日本列島における農耕の広まり ・生活の変化や当時の人々の信仰 ・大和朝廷による統一と東アジアとのかわり	・「世界の古代文明」については、人類の出現にも触れ、中国の文明を中心に諸文明の特色を扱い、生活技術の発達、文字の使用、国家のおこりと発展などの共通する点に気付かせる。 ・「宗教のおこり」については、仏教、キリスト教、イスラム教などを取り上げ、世界の文明地域との重なりに気付かせる。 ・古墳の広まりにも触れるとともに、大陸から移住してきた人々の我が国の社会に果たした役割に気付かせる。 ●前方後円墳の分布図から、古墳文化の勢力圏を読み取る。 ◇狩猟や採集、農耕の生活【小6(1)ア】 ◇古墳の出現と大和朝廷による国土の統一【小6(1)ア】 ◇世界各地の人々の生活と環境【地(1)イ】	県内各地の旧石器・縄文・弥生時代の遺跡や遺物 稲荷山古墳等の古墳と副葬品 辛亥銘鉄剣 渡来人の足跡
	イ 律令国家の確立と天皇・貴族の政治【5時間】	○大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら、国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことを理解させる。	・律令国家にいたるまでの過程 ・撰閣政治	・「律令国家の確立に至るまでの過程」については、聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を、小学校での学習内容を活用して大きくとらえさせる。 ●律令国家が確立するまでの様子について、ロールプレイの台本づくりを行う。 ◇大陸文化の摂取と遣隋使、大化の改新、大仏造営の様子【小6(1)イ】	条里遺跡 郡制
	ウ 古代文化とその国風化【2時間】	○国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解させる。	・仏教の伝来とその影響 ・仮名文字の成立	・仏教が我が国の文化の様々な面に影響を及ぼしたことに気付かせる。 ・日本独自の仮名文字が発明され、それを使った文学作品が書かれたこと等に気付かせる。 ・文化を担った人々などに着目し、代表的な事例を取り上げ、文化の特色を考えさせる。 ◇貴族の生活【小6(1)イ】	古代の寺社 万葉歌碑
エ 古代の人々の特色【1時間】	○考古学などの成果を活用するとともに、神話・伝承などの学習を通して、当時の人々の信仰やものの見方などに気付かせる。	・古事記 ・日本書紀	・神話・伝承などの学習を通して、当時の人々の信仰やものの見方などに気付かせる。 ◇神話・伝承【小6(1)ア】	土師器と須恵器 古代の神と仏教文化	
〈大観し、時代の特色をとらえる学習〉 ※グループで協力して、古代に活躍した人物を取り上げ、その人物について紙芝居を作成し、発表する。					
(3) 中世の日本 14	〈課題意識を高める導入〉 ※小学校で学習した中世の時代に活躍した人物や中世の年表などを提示し、古代との違いなどに気付かせ、興味をもたせる。				
	ア 武家政権の確立と展開【7時間】	○武家政治の特色を考え、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかわりかみられたことを理解させる。	・鎌倉幕府の成立 ・南北朝の争乱と室町幕府 ・東アジアの国際関係 ・応仁の乱後の社会的変動	・「東アジアの国際関係」については、元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割などを取り扱う。 ●「武家政治の特色」については、主従の結び付きや武力を背景にして次第にその支配を広げていったことなど、それ以前の時代との違いに着目して考え、自分の言葉で表現する。 ◇源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦い【小6(1)ウ】	武蔵七党など郷土の武士団 源平の戦いや南北朝の動乱と武蔵武士 承久の乱後の新恩地 鎌倉街道
イ 産業の発達と新しい文化【5時間】	○武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。	・農業など諸産業の発達 ・畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立 ・禅宗の文化的な影響	・「武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化」については、この時代の文化の中に現在に結び付くものがみられることに気付かせる。 ・中世の文化の学習については、銀閣（書院造）など代表的な事例を取り上げてその特色を考えさせる。 ●一揆が畿内で多く発生した理由を、民衆の成長を背景に説明する。 ◇室町文化【小6(1)エ】	板石塔婆（板碑）の造立 鎌倉仏教と寺院 中世の館と城	
〈大観し、時代の特色をとらえる学習〉 ※生活班などのグループで協力し、この時代の文化の特色をまとめ、内容を整理し、それぞれ壁新聞を作成し発表する。					
(4) 近世の日本 30 〔歴史のとらえ方(9)〕	〈課題意識を高める導入〉 ※小学校で学習した近世の時代に活躍した人物や近世の年表などを提示し、中世との違いなどに気付かせ、興味をもたせる。				
	ア ヨーロッパ人來航の背景・影響と織田・豊臣の統一事業【5時間】	○近世社会の基礎がつけられていったことを理解させる。	・戦国の動乱 ・ヨーロッパ人來航の背景とその影響 ・織田、豊臣による統一事業とその当時の対外関係 ・武将や豪商などの生活文化の展開	・「ヨーロッパ人來航の背景」については、新航路の開拓を中心に扱い、宗教改革についても触れる。「織田、豊臣による統一事業」については検地・刀狩などの政策を取り扱う。 ◇キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一【小6(1)オ】	上杉氏や後北条氏等の武蔵進出 後北条氏の滅亡と天下統一 古戦場
	イ 江戸幕府の政治の特色【4時間】	○江戸幕府の政治の特色を考えさせ、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。	・江戸幕府成立と大名統制 ・鎖国政策 ・身分制度の確立及び農村の様子 ・鎖国下の対外関係	・「鎖国下の対外関係」については、オランダ、中国との交易のほか、朝鮮との交流や琉球の役割、北方との交易をしていたアイヌについて取り扱う。 ●「江戸幕府の政治の特色」については、その支配の下に大きな戦乱のない時期を迎えたことなど、それ以前の時代との違いに着目して考え、自分の言葉で表現する。 ◇江戸幕府の始まり、大名行列、鎖国、身分制度の確立【小6(1)オ】 ○4(3)	川越藩、岩槻藩、忍藩、岡部藩 天領、旗本領
ウ 産業・交通の発達と町人文化の形成【13時間】 (身近な地域の歴史(9))	○町人文化が都市を中心に形成されたことや各地方の生活文化が生まれたことを理解させる。 ○地域への関心を高め地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解するとともに、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせる。	・産業や交通の発達 ・教育の普及と文化の広がり ・宿場町として栄えた郷土の歴史	・「産業や交通の発達」については、身近な地域の特色を生かすようにする。 ・「各地方の生活文化」については、身近な地域の事例を取り上げるように配慮し、「教育の普及」や社会的な「文化の広がり」と関連させて、現在との結び付きに気付かせる。◇町人の文化【小6(1)カ】 ・中山道沿いの宿場町として発展した郷土の歴史をテーマに取り上げ、資料館等の施設の活用や市役所生涯学習課職員等へのインタビューの活動を取り入れる。 ●私たちが住んでいる町がかつてどのような地域として発展したのか、イメージがわくようにまとめる。 ●調査した内容が理解できるよう、写真やイラストなどの資料を用いて自分の言葉で表現する。	三富・見沼などの新田開発 用水の開削 中山道 日光街道 城下町 宿場町 商業活動と市場 河川交通 地場産業の展開 寺子屋、藩校	

	エ 幕府の政治改革と幕府政治の行き詰まり 【6時間】	○幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解させる。	・社会の変動や欧米諸国の接近 ・幕府の政治改革 ・新しい学問・思想の動き	・「幕府の政治改革」については、百姓一揆などに結び付く農村の変化や商業の発達などへの対応という観点から、代表的な事例を取り上げる。 ◇国学や蘭学 [小6(1)カ]	塙保己一 和算 むらの信仰と文化	
〈大観し、時代の特徴をとらえる学習〉 ※個人で、政治的な事項（江戸幕府の仕組み、新井白石の政治、享保の改革など）について調べ、その内容を整理して、歴史新聞にまとめる。						
48	〈課題意識を高める導入〉 ※小学校で学習した近代に活躍した人物や近代の年表などを提示し、近世との違いなどに気付かせ、興味をもたせる。					
	ア 欧米諸国における近代社会の成立とアジア進出 【7時間】	○欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。	・市民革命 ・産業革命 ・アジア諸国の動き	・欧米諸国を例にして、近代社会の成立を年表を使って大きくとらえられるように工夫する。 ・産業革命とアジア進出を関連付けて理解できるようにする。 ◇世界の地域構成 [地(1)ア] ◇基本的人権の尊重 [公(3)ア]	忍・川越藩などの江戸の海岸防備	
	イ 明治維新と人々の生活の変化 【9時間】	○新政府による改革の特色を考えさせ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解させる。	・開国とその影響 ・富国強兵・殖産興業政策 ・文明開化	・身分制度の廃止では、現実には差別が残ったことに気付かせる。 ・「明治維新」については、複雑な国際情勢の中で独立を保ち、近代国家を形成していった政府や人々の努力に気付かせる。 ・「埼玉県行政文書」など具体的な資料を積極的に活用する。 ●「新政府による改革の特色」については、欧米諸国とのかかわりや社会の近代化など、それ以前の時代との違いに着目して考え、自分の言葉で表現する。 ◇黒船の来航、明治維新、文明開化 [小6(1)キ] ◇日本の地域構成 [地(2)ア] ◇租税の意義と役割 [公(2)イ] ○4(3)	武州直直し一揆 埼玉県の誕生 地租改正の実施 渋沢栄一 鉄道の敷設 学校の歴史 荻野吟子	
	ウ 立憲国家の成立と条約改正 【8時間】	○立憲制の国家が成立して議会政治が始まるのと同時に、我が国の国際的地位が向上したことを理解させる。	・自由民権運動 ・大日本帝国憲法の制定 ・日清・日露戦争 ・条約改正	・「日清・日露戦争」については、このころの大陸との関係に着目させる。 ・「条約改正」については、欧米諸国と対等の外交関係を樹立するための人々の努力に気付かせる。 ・「立憲制の国家が成立して議会政治が始まる」については、その歴史上の意義や現代の政治とのつながりに気付かせる。 ◇大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正 [小6(1)ク] ◇世界の地域構成 [地(1)ア]	県内の自由民権運動 秩父事件 日清・日露戦争と埼玉県	
	エ 産業の発展と近代文化の形成 【6時間】	○我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解させる。	・我が国の産業革命 ・この時期の国民生活の変化 ・学問・教育・科学・芸術の発展	・「我が国の産業革命」については、「富国強兵・殖産興業政策」の下で近代産業が進展したと関連させて取り扱い、都市や農山漁村の生活に大きな変化が生じたことに気付かせる。 ・「近代文化」については、伝統的な文化の上に欧米文化を受容して形成されたものであることに気付かせる。その際、代表的な事例を取り上げて、その特色を考えさせる。 ●身近な地域の資料を、この時期の歴史的事象と関連付けて説明する。 ◇科学の発展 [小6(1)ク] ◇身近な地域の調査 [地(2)エ]	織物、茶、製紙業と近代工場の発展	
	オ 第一次世界大戦と国際関係 【8時間】	○第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させる。	・第一次世界大戦の背景とその影響 ・民族運動の高まりと国際協調の動き ・我が国の国民的自覚の高まりと文化の大衆化	・「第一次世界大戦」については、日本の参戦、ロシア革命なども取り上げて、世界の動きと我が国との関連に着目して取り扱う。 ・「我が国の国民的自覚の高まり」については、大正デモクラシーの時期の政党政治の発達、民主主義思想の普及、社会運動の展開を取り扱う。 ・「文化の大衆化」については大都市の発達や都市に住む人々の生活様式や意識の変化、新聞や雑誌などの普及、ラジオ放送の開始などを取り扱う。 ◇世界の地域構成 [地(1)ア] ◇民主政治と政治参加 [公(3)イ] ○4(10)	労働争議と小作争議 米騒動と関東大震災	
カ 第二次世界大戦とその惨禍 【8時間】	○軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。	・経済的世界的な混乱と社会問題の発生 ・昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き ・中国などアジア諸国との関係 ・欧米諸国の動き ・戦時下の国民の生活	・「昭和初期から第二次世界大戦の終結」については、世界の動きと、我が国との関連に着目して取り扱うとともに、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気付かせる。 ◇日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦 [小6(1)ケ] ◇世界の地域構成 [地(1)ア] ◇世界の働きと経済 [公(2)]	世界恐慌 戦時下の暮らし 首都防衛と軍需工場化 疎開者の流入と学童集団疎開 熊谷などの空襲		
〈大観し、時代の特徴をとらえる学習〉 ※近代の日本と世界の特徴を理解するために、「近代とはどんな時代だったのか」について自分の言葉で表現する。						
16	〈課題意識を高める導入〉 ※小学校で学習した現代に活躍した人物や現代の年表などを提示し、近代との違いなどに気付かせ、興味をもたせる。					
	ア 戦後の日本の改革と2つの世界 【7時間】	○第二次世界大戦後の諸改革の特色を考えさせ、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる。	・冷戦 ・我が国の民主化と再建の過程 ・国際社会への復帰	・「我が国の民主化と再建」では、国民が苦難を乗り越えて新しい日本の建設に努力したことに気付かせる。 ●「第二次世界大戦後の諸改革の特色」については、新たな制度が生まれたことなどに着目して考え、自分の言葉で表現する。 ◇日本国憲法の制定 [小6(1)ケ] ◇世界の地域構成 [地(1)ア] ◇日本国憲法の基本的原則 [公(3)ア] ○4(10)	農地改革 工場誘致と鉄道の電化	
イ 高度経済成長と今日の日本と世界 【7時間】	○我が国の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。	・高度経済成長 ・国際社会とのかかわり ・冷戦の終結	・「高度経済成長以降」については、沖縄返還、日中国交正常化、石油危機などの節目となる歴史的事象を取り扱う。 ・歴史的分野の学習を終えるに当たって我が国の歴史の大きな流れを振り返り、広い視野に立って我が国の伝統と文化の特色を考えさせ、社会の一員としての自覚に立って明るい未来の創造に意欲を高めさせる。 ●歴史学習を振り返って、明るい未来を創造するために私たちができることを論述し、意見交換を行う。 ◇オリンピックの開催 [小6(1)ケ] ◇世界平和と人類の福祉の増大 [公(4)ア] ○4(9)	人口の急増と暮らし 工業化と大型店の進出		
〈大観し、時代の特徴をとらえる学習〉 ※第二次世界大戦後の諸改革の中から、個人でテーマを選び、レポートを作成する。レポートの形式は各自工夫させる。						
備考	・第1学年において歴史的分野内容(4)イまで、第2学年において歴史的分野内容(5)ウまで指導する。 ・〈課題意識を高める導入〉及び〈大観し、時代の特徴をとらえる学習〉は、大単元の「導入」と「まとめ」として設定し、合わせて2時間程度で扱うものとして構成した。					

(3) 公民的分野

大単元	中単元	小単元【時間】	小単元の目標	主な学習内容	指導上の留意点 ●言語活動の充実 ◇小学校及び他分野との関連 ○道徳との関連 ※対立と合意・効率と公正の視点	資料等 HP:ホームページ	個人	社会
(1) 私たちと現代社会	ア 私たちが生きる現代社会と文化	現代社会の特色 現代社会における文化の意義と役割 【10時間】	○現代日本の特色として、少子高齢化・情報化・グローバル化などがみられることを理解させるとともにそれらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付かせる。 ○現代社会における文化の意義や影響を理解させるとともに、我が国の伝統と文化に関心をもたせ、文化の継承と創造の意義に気付かせる。	・少子高齢化、情報化、グローバル化 ・科学、芸術、宗教 ・伝統的な考え方、信仰、習慣	・現代日本の社会には、どのような特色が見られるのか、どのような伝統や文化の影響を受けているのかを理解させる。 ●聞き取り調査をして、社会生活の変化をまとめ発表する。 ◇我が国の情報産業や情報化した社会の様子 [小5(4)] ○4(3) ・調査や討論などの多様な学習形態、課題を設定した学習を取り入れる。 ◇現代の日本と世界 [歴(6)] ○4(9)	現代の生活の変化に関する写真資料 統計資料 新聞 HP	生徒自身	身近な地域社会
		イ 現代社会をとらえる見方や考え方 物事の決定の仕方 個人の尊厳と両性の本質的平等 【10時間】	○社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えさせ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。 ○家族制度における個人の尊厳と両性の本質的平等、社会生活における取り決めの重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任などに気付かせる。	・物事の決定の仕方 ・きまり ・対立と合意 ・効率と公正 ・個人の尊厳と両性の本質的平等 ・契約の重要性やそれを守ることの意義	・政治的な活動や経済的な活動をとらえ説明するための概念的な枠組みである見方や考え方の基礎を養う。 ・社会生活に見られる具体的な事例を取り上げて考えさせる。 ※「物事の決定の仕方」や「きまり」など、社会生活にみられる事例を示しその意義などについて考えさせる。 ○4(1)、4(4) ・高齢者の扶養など家族生活をめぐる課題に関する情報を積極的に収集させる。 ・家庭のことを取り上げる際には、生徒のプライバシーに配慮する。 ●夫婦別姓の是非についてディベートなどの話し合い活動をする。 ○2(4)	自治会会則 スポーツやゲームのルール 生徒会会則 家族構成の割合等の統計資料 ディベートの資料	生徒自身	身近な地域社会
(2) 私たちと経済	ア 市場の働きと経済	経済活動の意義 【7時間】	○身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。	・市場経済 ・価格の働き	・市場経済という仕組みがある理由とその機能、金融の仕組みとその必要性を理解させる。 ・企業の社会的役割と責任について考えさせる。 ●コンビニエンスストア設置のシミュレーションを、根拠を基に討論する。 ※「効率と公正」の概念を、経済の基本的な考え方とらえる視点として生かす。	小遣い帳 家計簿 貸借情報誌 折り込み 広告	消費者	経済社会
		生産や金融などの仕組みや働き 【5時間】	○現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考えさせる。 ○市場における取引が貨幣を通じて行われていることに気付かせる。	・生産や金融などの仕組みや働き ・貨幣の働き ・家計（消費、労働力）と企業（生産） ・消費者の役割 ・企業の役割と社会的責任	・身近で具体的な事例を取り上げ、個人や企業の経済活動が様々な条件の中での選択を通じて行われるという視点に着目させる。 ・企業と家計・金融機関の関係やつながりを理解させる。 ◇我が国の情報産業や情報化した社会の様子 [小5(4)ア] ◇近代の日本と世界 [歴(5)カ]	株の見本 各企業のHP 金融機関のHP		
		職業の意義と役割 【3時間】	○社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神と関連付けて考えさせる。	・職業の意義と役割 ・雇用と労働条件の改善 ・勤労の権利と義務 ・労働組合 ・労働基準法	・企業の社会的役割と責任について考えさせる。 ※消費者、株主、従業員に対する企業の責任を具体的な事例を通して考えさせる。 ○4(5)	労働時間や賃金などの統計資料	労働者	
イ 国民の生活と政府の役割	国や地方公共団体が果たす経済的な役割 【5時間】	○国民生活と福祉の向上を図るために国や地方公共団体が果たす経済的な役割のうち、社会資本の整備、環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護等について考えさせる。	・社会資本の整備 ・公害の防止など環境の保全 ・社会保障の充実 ・消費者の保護	・少子高齢化などの現代社会の特色を基に、今後の日本の進むべき方向について多面的に考えさせる。 ・消費者も自らの利益の擁護及び増進のために自立した消費者になるように努めなければならないことや、どのような消費者行政が行われているのかについて理解させる。 ●少子高齢社会における、社会保障と財源の確保の問題の解決について、考え、説明する。 ◇我が国の情報産業や情報化した社会の役割 [小5(4)] ◇公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ [小5(1)ウ] ※民間の企業が提供できないものやサービスが、政府によって提供されていることを、効率や公正という視点で考えさせる。	バリアフリー施設の写真等 公害防止条例など市町村発行の広報誌	地域住民	国・地方公共団体	
	政府の財政 【5時間】	○国民生活や福祉の向上を実現する租税の意義と役割及び納税の義務を理解させる。 ○限られた財源の配分という観点から財政について考えさせる。	・財政の役割 ・歳入と歳出 ・租税の意義と役割 ・納税の義務	・租税に関する統計資料等を使い税の仕組みと役割について調べさせる。 ・歳入歳出の資料から税が福祉の実現に必要なことを理解させ、使われ方に関心をもたせる。 ◇近代の日本と世界 [歴(5)イ] ※財源の配分について、効率や公正の考え方に基づいて考えさせる。	「私たちの暮らしと税金」 国のHP	納税者	国	

大單元	中單元	小單元 【時間】	小単元の目標	主な学習内容	指導上の留意点 ●言語活動の充実 ◇小学校及び他分野との関連 ○道德との関連 ※対立と合意・効率と公正の視点	資料等 HP:ホームページ	個人	社会
(3)	ア 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	人間の尊重についての考え方と基本的人権 法の意義と法に基づく政治 【7時間】	○人間の尊重とはどういうことか、それはどのような方法で実現できるのか、なぜ法に基づいて政治が行われることが大切なのか、などについて理解させる。	・基本的人権の意味と人権の発達 (平等権、自由権、社会権、新しい権利) ・法体系と法治主義 (民主主義の原理)	・日本国憲法の基本的原則を具体的な生活とのかかわりから学習させ、自由・権利と責任・義務の関係を社会生活の基本として広い視野から正しく認識させる。 ●新聞記事を積極的に活用し、人権問題についてレポートなどにまとめる。 ◇国民としての権利及び義務 [小6(2)] ◇近代の日本と世界 [歴(5)ア] ○4(3)	自由権等の具体的事例 新聞記事	生徒自身	家族・身近な地域社会
		日本国憲法に基づく日本の政治 日本国憲法の基本的原則 天皇の地位と国事行為 【6時間】	○我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意味について考えさせるとともに、日本国憲法の基本的原則を理解させる。	・国民主権 ・基本的人権の尊重 ・平和主義 ・象徴天皇制と天皇の国事行為	・日本国憲法が、基本的人権の規定とそれを保障する政治機構を主な内容としていることなど、日本国憲法の構成を、大きくとらえさせる。 ◇国民主権 [小6(2)] ◇現代の日本と世界 [歴(6)ア]	日本国憲法	国民	現代の日本と世界
	地方の政治と自治 【5時間】	○地方自治の考えや仕組みを理解させるとともに、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識を身に付けさせる。	・わたしたちと地方自治 ・地方分権と住民参加 ・市町村合併と地域づくり ・まちづくりを調べる	・身近な町の行政を取り上げ、自分たちの生活とのかかわりも考慮に入れた授業展開を行う。 ●「よりよいまちづくり」構想を提案し、ホームページなどを通して、行政や他校へも発信する。 ◇地方公共団体や国の動き [小6(2)] ※「対立と合意」の考え方をういて現実の政治の動きが説明できるようにさせる。	市町村発行資料 広報誌	住民	都道府県・市町村	
イ 民主政治と政治参加	現代の民主政治 国の政治 【12時間】	○我が国の民主政治が日本国憲法をはじめとする法に基づいて行われていることに着目させ、議会制民主主義の意義について考えさせる。 ○法に基づく公正な裁判の保障について理解させ、民主政治の推進のために世論形成や選挙など国民の政治参加が必要なのに気付かせる。	・人々の意見を政治に生かす ・民主主義とは ・選挙の仕組みと課題 ・政治参加と世論 ・政党と政治 ・議会制民主主義と国会 ・国会の働き ・行政と内閣 ・法を守る裁判所 ・裁判の種類と人権 ・三権の抑制と均衡	・議会制民主主義に関する学習を通して、民主政治が権力分立により国民の自由や権利を守るとともに、国民の意思の反映を図る仕組みをもっていること、また国民の積極的な政治参加により民主政治を推進することが大切であることを理解させる。 ・人間を尊重し自由と権利を保障する民主政治を守り、発展させようとする意欲と態度を養う。 ・司法制度改革に触れながら、裁判員制度について扱う。 ●三権の役割や国民の政治参加について、ディベートや模擬裁判などの体験的学習を行う。 ※「社会生活における物事の決定の仕方」についての学習と関連させながら、民主政治における意思決定の方法について理解させる。 ◇近代の日本と世界 [歴(5)オ]	衆・参議院 HP 政党 HP 各省庁 HP 衆議院選挙事例 ディベート資料 模擬裁判資料	国民	国民	
	ア 世界平和と人類の福祉の増大 国際社会と世界平和 国際問題と地球市民 【10時間】	○世界平和と人類の福祉の増大のために、世界の国々ではどのような協力が行われているか、我が国ではどのような協力をしているかを理解させたり、どのようなことができるかなどについて考えさせたりする。	・主権国家と国際社会 ・地域主義の動き ・地域紛争と民族問題 ・国際連合の仕組みと働き ・世界平和の実現 ・資源・エネルギー問題 ・地球環境問題 ・人口、食料問題 ・世界の子どもの問題	・世界平和の実現にかかわって、日本国憲法の平和主義と我が国の安全と防衛、核兵器の脅威など世界平和に関わる問題について考えさせる。 ・パレスチナ問題を通して、文化や宗教の多様性について考えさせる。 ・我が国と諸外国の国旗及び国歌を尊重する態度を育てる。 ◇地理的、歴史的分野との関連を図り、その学習の成果を生かすことに留意する。 ◇平和な国際社会の実現のために我が国が果たしている役割、我が国の国際交流や国際協力、国際連合の働き [小6(3)] ◇現代の日本と世界 [歴(6)イ] ※我が国の役割を考えたり、課題を探究したりする際に「現代社会をとらえる見方や考え方」の学習の成果を生かすようにする。	主な国の国旗及び国歌 国連 HP 資源・エネルギーに関する統計 環境省 HP	日本人	国際社会	
(4)	イ よりよい社会を目指して	持続可能な社会の形成 私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題 【15時間】	○私たちがよりよい社会を築いていくためにはどうしたらよいのかについて、持続可能な社会を形成するという観点から、課題を設けて探究し、自分の考えをまとめさせ、これから社会参画していくための手掛かりを得させる。	・持続可能な社会とは ・「よりよい社会を目指して」解決すべき課題の探究活動	・探究する課題の設定にかかわっては、身近な地域の生活や我が国の取組との関連に着目させるなどの工夫を行い、適切に設定させる。 ・社会的事象は相互に関連し合っていることに留意し、特定の内容に偏ることなく、分野全体として見通しをもったまとまりのある学習が展開できるようにする。 ●プレゼンテーションやレポート作成を通して、自分の考えを、自分の言葉や文章で表現する。 ◇公民的分野で学習してきた成果の活用に加えて地理的、歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、これらの分野で育成された能力や態度が、更に高まり発展するように留意する。 ※課題を探究させる際に、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方を活用させる。	環境省 ESD 関連 HP 各種 HP 地図、統計等	人類	地球社会

2 単元の指導計画例

I 地理的分野

1 内容(1)「世界の様々な地域」イ 世界各地の人々の生活と環境

(1) 単元名 世界各地の人々の生活と環境

(2) 単元構成の視点

この単元は、世界各地の人々の生活の様子を、衣食住や宗教とのかかわりを中心に、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させることを主なねらいとしている。

この単元の指導に当たっては、生徒が小学校で習得した世界に関する知識や、日本とつながりの深い国から一か国を選択して調べ話し合うなどした小学校第6学年での作業的、体験的な学習活動の経験を活用することが望ましい。また、視聴覚資料など各種の資料を活用し、世界地理の学習への興味や関心を高める内容になるよう配慮する必要がある。さらに、世界各地の人々の生活と環境とのかかわりや、人々が様々な条件のもとで多様な生活を営んでいることに気付かせ、異なる文化を尊重する態度を身に付けさせることに留意する必要がある。

(3) 単元の目標

世界各地の人々の生活の様子を、衣食住や宗教とのかかわりを中心に、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる。

(4) 単元の指導計画例 (12時間扱い)

時	主な学習内容と学習活動	・指導上の留意点 ◎主な評価 ●言語活動の充実
第1時	<p><各地の人々の生活の様子を見い出す></p> <p>○各地の写真をみて、その地域を予想させ地図上に示す。</p>	<p>・小学校で習得した知識や学習活動の経験を活用する。</p> <p>・視聴覚資料などを活用し、世界地理の学習への興味や関心を高めさせる。</p> <p>◎世界各地には、人々が多様な生活を営んでいることに気付いている。(関)</p>
第2～6時	<p><衣食住を事例として取り上げる></p> <p>○写真や映像資料などから人々の生活の工夫や、伝統的生活と現代の変化をつかむ。</p> <p>○同じような自然条件の幾つかの地域の共通点や相違点を探す。</p> <p>「寒い地域に住む人々の伝統的な生活様式と現代の生活とを比較しよう。」</p> <p>「各地の乾燥地域の生活の共通点と相違点を見つけよう。」</p>	<p>・事例として取り上げる地域は、世界の諸地域の学習で取り上げる事例とも合わせ一部の地域に偏らないように配慮する。</p> <p><特色ある自然環境の具体的な事例地域></p> <p>(暑い地域) …タイ、ブラジル、アフリカの赤道付近など</p> <p>(寒い地域) …カナダ、ロシアの北極海沿岸など</p> <p>(乾燥地域) …エジプト、オーストラリア、ウクライナなど</p> <p>(山岳地域) …ベルー、中国チベット高原など</p> <p>(島嶼地域) …ツバル、インドネシアなど</p> <p>・自然的条件のみに着目するのではなく、社会的条件にも配慮する。</p> <p>・同じ地域の過去と現在の生活を比較して、その変化に着目し、人々の生活が可変的なものであることに気付かせる。</p> <p>◎世界各地の人々の生活の工夫と伝統的生活と現代の変化、同じような自然条件の地域の共通点や異なる点を、写真や映像資料などから見いだしている。(技)</p>
第7～9時	<p><生活と宗教とのかかわりを事例として取り上げる></p> <p>○世界の主な宗教の分布を大まかにつかむ。</p> <p>○各地の宗教とかかわりの深い人々の生活を調べる。</p> <p>「主な宗教別の人口と分布を主題図や統計資料から調べよう。」</p> <p>「イスラム教が、人々の生活に及ぼす影響を調べよう。」</p>	<p>・写真や映像資料などを用いて、宗教とかかわりの深い生活の様子をつかませる。</p> <p>・宗教とかかわりの深い生活の様子として、マナーやタブーを取り上げることが考えられる。また、同じ地域でも宗教その他の社会的条件による生活の違いがみられることなどにも着目させる。</p> <p>・宗教の分布図を扱う際には、分布の境界は必ずしも明確に分けられないものであることに触れる。</p> <p>・歴史的分野の学習と関連付けて理解させる。</p> <p>◎世界には様々な宗教があり、宗教とかかわりの深い生活が営まれていることや、同じ地域でも宗教その他の社会的条件による生活の違いがみられることなどを理解している。(知)</p>
第10～12時	<p><追究の過程や成果をまとめる></p> <p>○衣食住の特色と生活、宗教のかかわりを表やイラストマップにまとめる。</p>	<p>・グループでまとめるなど小学校での作業的、体験的な学習活動の経験を生かして興味や関心を喚起させるまとめ方を行う。</p> <p>◎各地の人々の生活の様子の学習のまとめを通して、世界地理の学習への興味や関心を高めるとともに、多様な文化を尊重する態度を身に付けている。(関・思)</p> <p>●学習した事例を一覧表にまとめたり、イラストマップに表したりするなど、地理的技能を生かして自分なりに工夫してまとめる。</p>

(5) 習得させたい地理的技能例

<p><景観写真の利用>○異なる地域どうしや同じ地域の新旧を比較して、その生活の違いや変化を読み取る。</p> <p>○各地の人々の生活の様子を写した景観写真を地図上に配置して、情報を整理する。</p>
<p><世界地図の利用>○既存の世界地図から地理的事象を読み取ったり、地理的事象を地図を通して追究したりしてとらえる。</p> <p>○白地図に取り上げた国や地域を着色したり、名称等を記入したり、分布域を示したりする。</p>
<p><分布図の利用>○気候帯の広がりや世界の主な宗教の分布などをとらえる際に活用する。</p>
<p><統計資料の利用>○民族、宗教別の人口構成などを統計資料から読み取る。</p> <p>○様々な気候のおおまかな特色を気温と降水量のグラフ等から読み取る。</p>
<p><イラストマップの作成>○衣食住の特色と生活、宗教のかかわりをイラストマップにまとめる。</p>

(6) 人々の生活を中心とした文化の学習を行う際の配慮事項

<p>○人々の生活を中心とした文化の学習については、一つの事例が生活全体あるいは地域全体の特徴としてとらえる過度な一般化を招きやすい。文化を固定的なものにとらえさせたり、特定の民族に対する固定観念をもたせたりする学習とならないよう留意する。</p> <p>○地域の人々の生活は、それぞれの地域の地理的諸条件のもとに成り立っているということ、他地域の人々の生活を理解するのに自分たちの生活を絶対視してとらえてはいけないことに留意して扱い、多様な文化を尊重する態度を身に付けさせる。</p>

2 内容(1)「世界の様々な地域」ウ 世界の諸地域

(1) 単元名 世界の諸地域

(2) 単元構成の視点

この単元は、世界の各州〔(ア)アジア、(イ)ヨーロッパ、(ウ)アフリカ、(エ)北アメリカ、(オ)南アメリカ、(カ)オセアニア〕を対象として、それぞれの州内に暮らす人々の生活にかかわり、かつ我が国の国土の認識を深める上で効果的な観点から州内の特色ある地理的事象を基に主題を設定し、その追究を通してそれぞれの州の地域的特色を理解させることを主なねらいとしている。さらに、「州ごとに様々な面から地域的特色を大観させ、その上で主題を設けて地域的特色を理解させるようにすること」(内容の取扱い)とあることから、それぞれの州の地域的特色を理解させるには、まず、基礎的・基本的な知識を習得する学習を行い、それらの知識を活用して中学校第1学年の生徒の生活と結び付く地理的事象を取り上げ、生徒の関心と結び付きやすい主題を設定し追究する中で、地域的特色が明らかになるように学習を展開していくことが大切である。

(3) 「州の地域的特色を理解させる」について

<p><地域的特色とは></p> <p>①地域の環境条件及び他地域との結び付きと、そこに居住している豊かな生活を実現するために努力している人々とのかかわりの中で生み出される。</p> <p>②地方的特殊性(各地域のもつ独特の性質)と一般的共通性(他地域にも共通してみられる性質)からなる。</p> <p>③諸条件(自然的条件や社会的条件)の変化などに伴って、変容している。</p>	
<p><学習の流れの構造></p> <p>各州の地域的特色を大観する学習＝基礎的・基本的な知識を習得する学習</p> <p>↓</p> <p>※各州の自然、産業、生活・文化、歴史的背景などについて概観し、基礎的・基本的な知識を身に付けさせることを意味する。 ※この知識が、後の学習に活用されるとともに、概略的な世界像が形成されるように学習内容を構成する。</p> <p>主題を設定し、追究する学習＝習得した知識を活用する学習</p> <p>※主題は、州の地域的特色が明確となり、かつ我が国の国土の認識を深める上で効果的である観点から設定する。また、州ごとに異なるものとなるようにする。 ※主題は、取り上げる地理的事象、既習内容、生徒の生活経験などを勘案して、教師が設定する。</p>	

(4) (ウ)アフリカを事例とした小単元の学習

ア 小単元の目標

モノカルチャー経済下の人々の生活という主題の追究を通して、アフリカの脆弱な経済基盤とその理由を明らかにするとともに、アフリカの地域的特色を理解させる。

イ 小単元の指導計画例(4時間扱い)

時	主な学習内容と学習活動	・指導上の留意点 ◎主な評価 ●言語活動の充実
第1時	<p><アフリカ州の地域的特色を大観する></p> <p>○アフリカ州の地域的特色を様々な面から調べる。 「ロシア連邦と面積を比べてみよう。」 「主な地形や気候を確認しよう。」 「新聞広告からアフリカ産のものを探そう。」 「各国の主要生産品を確認しよう。」</p>	<p>・取り上げる地理的事象は、州において広範に見られる特色ある事象とする。</p> <p>◎大観することにより、州の基礎的・基本的な知識を身に付けている。(知)</p> <p>●地球儀や地図帳からロシアと面積の比較をしたり、写真資料や気候帯の分布図を用いて地形や気候の確認をしたりする。また、統計資料等から各国の主要生産品を調べる。</p>
第2・3時	<p><主題を設定し追究する></p> <p>《主題例》モノカルチャー経済下の人々の生活 《学習課題(問い)》第一次産品に頼るアフリカ諸国の人々はどんな生活をしているのだろうか。</p> <p>○主要国の経済状況と生産物、貿易の様子、主要生産品とアフリカに暮らす人々の生活との関連、旧宗主国等先進国との結び付き等を追究し、アフリカの脆弱な経済基盤とその理由を調べる。 「植民地支配を受けたアフリカの歴史からモノカルチャー経済の実態を探ろう。」 「特色ある国(ナイジェリアやコートジボアール等)を事例として、主要生産品と人々の生活について調べよう。」 「アフリカがかかえる問題と新たな動きについて確認しよう。」</p>	<p>・網羅的な知識を身に付けさせるのではなく、アフリカ州を生徒が身近に感じて、州のイメージを構成することができ、世界の地理的認識を深めるように扱う。</p> <p>・問題として地域紛争やエイズの問題、新たな動きとしてレアメタルの産出、我が国との交流について取り上げる。</p> <p>●植民地支配の主題図や貿易相手国の統計資料、特色ある国の旅行記やアフリカに渡航した経験のある人の報告書等豊富な情報を活用して説明する。</p> <p>◎第一次産品に頼るアフリカ諸国の人々の生活の追究を通して、アフリカ州の地域的特色を理解している。(思・知)</p>
第4時	<p><追究の過程や成果をまとめる></p> <p>○アフリカ州の地域的特色について、学習の成果を世界地図上や略地図上に表現する。</p>	<p>・地理的技能の育成に重点を置いた指導、生徒の生活経験と結び付いた情報を豊かに獲得させていく指導を行う。</p> <p>●アフリカ州のイメージを構成し、略地図を活用して自分なりに表現する。</p> <p>◎アフリカ州の地域的特色を理解し、世界地図上や略地図上に表現している。(思・技)</p>

(5) 習得・活用させたい地理的技能例

<p><世界地図の利用>○世界地図や地球儀を活用して、アフリカ州の大きさや他との比較、主な自然等を確認する。</p> <p><統計資料の利用>○多面的・多角的に統計資料を読み取り、アフリカ州の地域的特色をとらえる。</p> <p><主題図の作成>○各国の主要生産品等を調べ、その結果を記号やイラスト、階級区分図として地図で示す。</p> <p><略地図の作成>○アフリカ州の地理的特色を略地図上に的確に表現し、説明する。</p>
--

3 内容(2)「日本の様々な地域」ウ 日本の諸地域

(1) 単元名 日本の諸地域

(2) 単元構成の視点

この単元は、日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域の特色ある地理的事象や事柄を他の事象と有機的に関連付けて追究する活動を通して、日本の諸地域の地域的特色をとらえることを主なねらいとしている。また日本の様々な地域を地誌的に取り上げて我が国の国土に対する認識を深めさせるものであるが、各項目を網羅的に取り上げると学習内容が過剰になるため、動的に扱うものである。

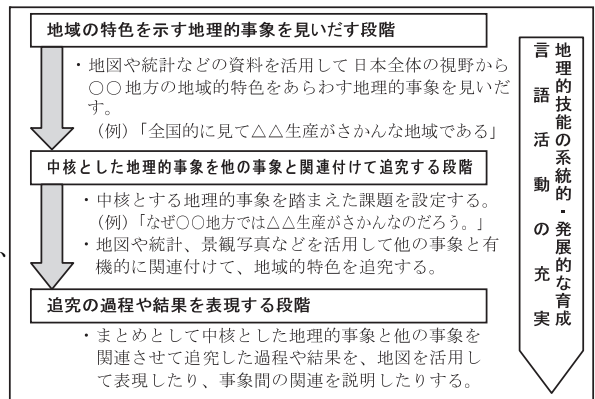
この単元では学習指導要領に示されている(ア)~(キ)までの考察の仕方を基にして地域的特色を追究するための適切な課題を設定し、様々な資料を適切に活用して地域的特色を考察し、追究した過程や結果を適切に表現するといった学習を展開することが大切である。その際、地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう、その系統性に留意して計画的に指導する必要がある。

(4) 単元の目標

日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの特色ある地理的事象や事柄を他の事象と有機的に関連付けて追究する活動を通して、日本の諸地域の地域的特色をとらえさせる。

(5) 小単元の指導計画例 (5時間扱い) <九州地方を取り上げ、自然環境を中核として追究した例>

(3) 各小単元の流れの構造



時	主な学習内容と学習活動	・指導上の留意点 ◎主な評価 ●言語活動の充実	資料
第1時	<地域的特色を示す地理的事象を見いだす段階> ・既習事項や地図や統計、写真などの各種の資料から九州地方の自然環境に関する特色を読み取る。	・日本全体の視野から見ると、「九州地方は火山の多い地域であり、火山灰が厚く堆積した地域が広くみられる」、「九州地方は比較的温暖な地域だが、台風や梅雨時の集中豪雨などの自然災害が多い」ことを資料から読み取らせる。 ◎九州地方の地域的特色を意欲的に見いだそうとしている。(関) ◎各種の資料から九州地方の自然環境に関する特色を読み取っている。(技) ●各資料から読み取れたことを文章で的確に記述する。	・九州地方の地形 ・各地の雨温図
第2・3時	<中核とした事柄を他の事象と関連付けて追究する段階> 九州地方の北部と南部、沖縄では、自然環境と人々の生活の営みの特色に、どのような違いがあるのだろうか。		
	・九州の北部と南部、沖縄の各地域での農業の様子について資料を活用して調べ、その要因としての自然環境との関連について追究する。 「なぜ九州北部では二毛作が行われているのか。」 「なぜ九州南部のシラス台地では畑作や畜産がさかんなのか。」	・九州地方の北部と南部、沖縄の地形や気候などの自然環境と各地域の農業の特色と比較し、関連付けをさせる。 ・都道府県別農業生産額から、九州地方の各県では農業の様子が異なることを読み取らせ、地域による農業生産の違いに気付かせる。また九州地方の農業生産の違いを、気候や地形などの自然環境と関連付けて考察させる。 ・九州北部では比較的温暖な気候を利用して二毛作が行われていること、九州南部では火山灰の台地を開発し畑作や畜産が行われていることを調べさせる。 ・九州の北部や南部の農地の開発の歴史的な経緯などもあわせて調べさせる。 ◎各資料を関連付けて農業と自然環境の関連について、適切に読み取って考察している。(思) ●それぞれの資料を比較し関連付けて、読み取れた事柄を記述する。	・都道府県別農業生産額 ・九州の県別の農業生産割合 ・二毛作のカレンダー ・シラス台地の農業分布図
	「なぜ宮崎平野ではビニルハウスによる促成栽培がさかんなのか。」 「なぜ沖縄では花卉栽培がさかんなのか。」	・宮崎平野では、温暖な気候を利用してビニルハウスによる野菜の促成栽培を行い、大都市に出荷していることを、資料を活用して調べさせる。 ・沖縄では温暖な気候を利用して花卉栽培を行い、大都市に飛行機を活用して出荷していることを、資料を活用して調べさせる。 ・どちらの地域も温暖な気候を利用して栽培した農産物を大都市へ輸送して販売していることを資料から読み取らせ、自然環境と農業、地域の結び付きの関連について考察させる。 ◎各資料を関連付けて自然環境と農業、地域の結び付きの関連について、適切に読み取って考察している。(思)	・宮崎産野菜の生産と流通の関係資料 ・沖縄産の花弁の生産と流通の関係資料
第4時	・九州地方において火山や台風などの自然災害に備え、被害を少なくするために様々な生活の工夫と自然環境との関連について追究する。 「九州南部では火山による被害を少なくするためにどのような生活の工夫をしているのか。」 「沖縄では台風による被害を少なくするためにどのような工夫をしているのか。」	・九州地方の火山のハザードマップや降灰予報などの資料から、火山による被害を少しでも少なくするための様々な工夫を読み取って考察させる。 ・沖縄の伝統的な民家や現代の民家のイラストなどの資料から、台風による被害を少しでも少なくするための様々な工夫を読み取って考察させる。 ・地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることに気付かせる。 ◎九州地方の自然災害と災害に備える工夫について、資料を活用して分かりやすく説明している。(技) ●沖縄の民家のイラストを活用し、台風の被害を少なくするための工夫を具体的に説明する。	・火山のハザードマップ ・桜島の降灰予報 ・沖縄の伝統的な民家と現代の民家のイラスト
第5時	<追究の過程や結果を表現する段階> ・これまで学習してきたことを、地図を活用し、簡単な文章などとともにまとめて表現し、事象間の関連について説明する。	・九州地方の自然環境の特色と農業の関連、自然災害と災害に備える工夫について、地図を活用し簡単な文章などとともにまとめて表現させる。 ◎九州地方の自然環境の特色と農業の関連、自然災害と災害に備える工夫について理解している。(知) ◎九州地方の自然環境の特色と農業の関連、自然災害と災害に備える工夫について、図や簡単な文章を活用して分かりやすく表現している。(技) ●九州地方の自然環境の特色と農業の関連、自然災害と災害に備える工夫について、図や簡単な文章などを活用して分かりやすくまとめて説明する。	・白地図

4 内容(2)「日本の様々な地域」Ⅰ 身近な地域の調査

(1) 単元名 身近な地域の調査

(2) 単元構成の視点

この単元では社会参画の視点を取り入れた探究型学習を、地理的分野の学習のまとめとして行うことが期待されており、地理的事象を見だし、事象間の関連の発見過程を体験し、地理的な追究の面白さを実感させる体験的、作業的な学習を通して、生徒が生活している地域に対する理解と関心を深めさせ、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を育てることと、地理的な見方や考え方の基礎を培うことが大切である。

また、学校所在地の事情などで野外観察や調査の実施が困難な場合は、地図、画像、統計などを基に地理的事象を読み取り、調べ、追究する学習を行うことになるが、野外観察や調査ができる数少ない単元であることを考慮してできる限り実施したい。

(3) 単元の目標

身近な地域における地理的事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生活している土地に対する理解と関心を深めて地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を養うとともに、市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。

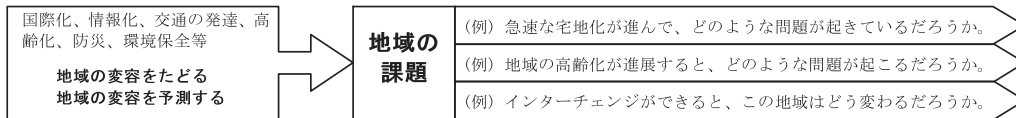
(4) 地形図や空中写真、各種統計や資料の準備

地図や空中写真	
○	都市計画図 (1:2,500や1:10,000などがある) 市町村役場の都市計画関係課等に問い合わせる。
○	国土地理院発行の地形図 (1:25,000及び1:50,000) 教科書や専門書を扱う書店等で手に入る。
○	旧版の地形図 (以前発行された古い地形図) 市町村役場、県立文書館、国土地理院ホームページなどで確認し、複写してもらう。
○	空中写真 (航空機で空から撮影した写真) 国土地理院のホームページにある国土変遷アーカイブのページで、過去から現在までの空中写真が閲覧できる。また県立文書館の地図センターでも空中写真を閲覧できる。

各種統計や資料	
○	市町村関係の統計書 市町村役場の広報担当等で市町村勢要覧や市町村の統計書が手に入る。また市町村役場のホームページでも統計を掲載している場合も多い。
○	市町村史 学校内の図書館に配架されている場合が多いが、なければ市町村立図書館で閲覧できる。過去の統計や地図などの資料が掲載されていることが多い。
○	埼玉県関係の統計書 市町村立図書館、県立図書館等で閲覧できる。また、埼玉県のホームページでも各種の統計が公表されている。

(5) 社会参画について

この単元では、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を育成することが大切である。そのためには、地理的な考え方を構成する一つの柱である、地域の変容をとらえ、地域の課題や将来像を考えさせることが地域社会への参画の第一歩である。したがって野外観察や調査を通して考察した地域的特色をまとめ、地域の課題を見だし考察し、意見交換させるなどの活動が重要である。



(6) 指導計画例 (10時間扱い)

時	主な学習内容と学習活動	・指導上の留意点 ●主な評価 ●言語活動の充実	資料
第1 ～ 3時	<p><大縮尺の地形図の読み取りを行う></p> <p>○大縮尺の地形図から身近な地域の地域的特色を読み取る。</p> <p><取り上げる地理的事象を決める></p> <p>○学校の屋上や学校近辺の様子の観察から、各自が取り上げたい地理的事象を決める。</p> <p><調査項目を決め、野外観察や調査を行う></p> <p>○同じ課題を選択した者同士でグループをつくり、野外観察や調査を行う。</p>	<p>・身近な地域の大縮尺の地形図からの地域的特色の読み取りを行う中で、大縮尺の地形図の読み取りの技能を育成するようにする。</p> <p>・生徒の登下校の途中にある地理的事象などを取り上げ、教師がヒントになるような資料をあらかじめ作成しておくことや、地理的事象に気付かせるヒントになるようなルートを考慮したルートマップを作成し、簡単な観察をさせることも考えられる。</p> <p>・目的や方法をはっきりさせた上で観察や調査をさせるようにする。</p> <p>・安全性や挨拶などのマナーに十分に配慮させるようにする。</p> <p>◎課題の追究をめざし、意欲的に野外観察や調査を行っている。(関)</p>	<p>・地形図等</p> <p>・教師作成のヒント資料やルートマップなど</p> <p>・ワークシート</p>
第4 ～ 9時	<p><とらえた地理的事象について、分布図等で表す></p> <p>○野外観察や調査の結果から分布図や主題図などを作成する。</p> <p><傾向性や規則性を見だし、地形図や関係する主題図と見比べてみる></p> <p>○できあがった分布図や主題図等から何らかの傾向性や規則性を見だし、他の資料と比較する。</p> <p><地理的事象を成り立たせている要因を調べ、関連を調査する></p> <p>○なぜそういった分布がみられるのかなど、その要因を各種の資料等から調べる。</p> <p><地域的特色としてまとめ、地域の課題や将来像について考察し、意見交換する></p> <p>○グループで地域の課題や将来像について、資料を基にして意見交換を行う。</p>	<p>・分布図のベースとなる地図は、あらかじめ教師が何種類かを準備しておき、調査項目によって生徒が選択できるようにする。</p> <p>◎野外観察や調査の結果から適切に分布図を作成している。(技)</p> <p>・できあがった分布図から傾向性や法則性を見だし、その事象を成り立たせている要因について予想させて、地形図や主題図等との関連を考察させるようにする。</p> <p>●分布図や主題図等から読み取った傾向性や規則性を文章にしてまとめる。</p> <p>・分布図に表した事象を成り立たせている要因について追究させ、各種の資料等と関連付けて考察させるようにする。</p> <p>◎分布図等の作成した資料と地形図等の資料を比較、関連付けて適切に考察、判断している。(思)</p> <p>●地理的事象とそれを成り立たせている要因の関係性について考察し、文章でまとめて記述する。</p> <p>・調査した事象に関わる地域の課題や将来像について、各自で資料を基に根拠をあげて考察し、グループで意見交換させる。</p> <p>●調べた結果から地域の課題や将来像について考察し、グループ内で資料を基にして根拠をあげて意見を交換する。</p>	<p>・分布図のベースマップ</p> <p>・地形図や主題図</p> <p>・各種の統計資料</p> <p>・まとめ用のワークシート</p> <p>・意見交換用のワークシート</p>
第10時	<p><地図等に分かりやすくまとめ、調査結果を発表する></p> <p>○グループごとに調査結果をまとめてクラスで発表する。</p>	<p>・地域の課題と関連付けることと、地図等に分かりやすくまとめることに留意してまとめさせるようにする。</p> <p>・クラス全体で発表会を行い、グループごとに発表させる。</p> <p>◎地域の地理的特色やその要因との関係、地域の課題について理解している。(知)</p> <p>●クラス全体で発表会を行い、地図等を活用して分かりやすく説明する。その際、資料から読み取ったことと自分たちの意見を区別して表現する。</p>	<p>・発表資料</p>

II 歴史的分野

1 内容(1)「歴史のとらえ方」イ 身近な地域の歴史を調べる活動

(1) 単元名 産業・交通の発達と町人文化の形成

(2) 単元構成の視点

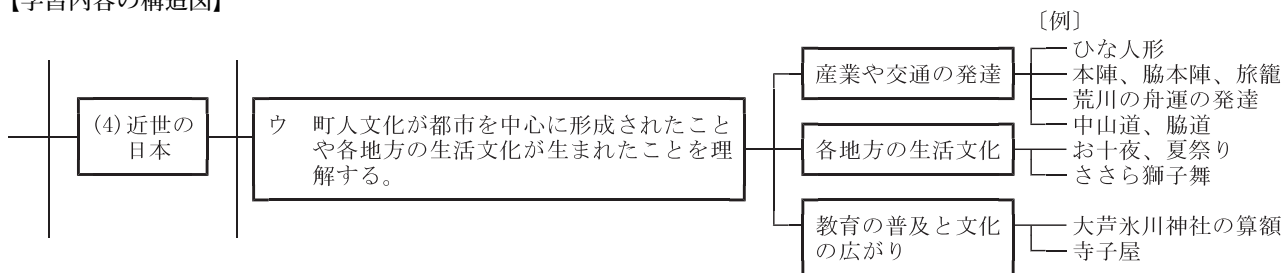
ア 単元の位置付け

「身近な地域の歴史を調べる活動」は、地域の関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせることにねらいがある。単に地域の歴史を知ることと学び方を学ぶことだけではなく、我が国の歴史の流れにつながる地域の歴史を取り上げることが求められる。

従って、それにふさわしい歴史的事象や時代は地域によって異なるので、地域の特性に応じて歴史的事象や時代を取り上げるようにする。例えば、古墳がみられるような地域では、「内容(2)古代までの日本」の学習と関連付けて調べる活動を行う。殖産興業関係の工場などの跡のある地域では、「内容(5)近代の日本と世界」の明治維新と関連付けて単元を設定する。

ここでは、鴻巣市で学ぶ生徒が、中山道の宿場町として発展してきた鴻巣市を調べ、江戸時代の産業や交通の発達について多面的・多角的に考察し、自分の考えをまとめ、発表するという学習を行う。内容(4)「近世の日本 ウ産業・交通の発達と町人文化の形成」の学習と関連付け、鴻巣市の産業や町並み、衣食住、年中行事、祭礼などの調査学習を通して、現在との結び付きに気付かせ、受け継がれた伝統や文化の特色をとらえさせるよう指導計画を構成した。

【学習内容の構造図】



イ 指導上の留意点

- 我が国の歴史を理解させることにつながる歴史的事象を取り上げるようにする。そのために、学校所在地にある歴史教材（実物資料、史跡、地名など）を調査、整理しておく。
- 生徒自らの「調べ学習」となるように資料の収集、実地調査の方法、レポートや新聞の作成方法などを指導し、歴史の学び方を身に付けさせるようにする。
- 人々の生活や生活に根ざした伝統や文化に着目し、関心を高められるように取扱いを工夫する。
- 地域における人材の活用や博物館、郷土資料館などの活用も考慮する。
- 指導計画の作成に当たっては、地理的分野及び公的分野との関連に配慮し、内容(2)「古代までの日本」以下とかわらせて計画的に実施する。

(3) 単元の目標

- 身近な地域における歴史的事象に関心のあるテーマで調査する学習を通して、我が国の歴史について理解させる。
- 身近な地域における具体的事象から、江戸時代と現代を考えさせる学習を通して、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高めさせ、歴史の学び方を身に付けさせる。
- 産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを通して、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解させる。

(4) 単元の指導計画例（9時間扱い）

過程	時	主な学習内容と学習活動	・指導上の留意点 ◎主な評価 ●言語活動の充実
課題設定	第1～3時	1 中山道の町並みの今と昔を比べる。 ・鴻巣市文化財パンフレット「中山道鴻巣宿と間の宿吹上」内の地図「鴻巣宿」を見て、今と昔を比較する。	・中山道鴻巣宿の地図を見せ、今と昔を比較させ、子どもたちの意欲を引き出す工夫をする。 (例) ①現存する建物を探す。 ②母校や自宅の位置を予測する。など ◎中山道鴻巣宿地図から現在の鴻巣市と比較している。(技) ●気付いたことを付箋紙に書いた後、一枚の模造紙に貼りながら、グループの意見としてまとめ、発表する。
		2 学習の内容を理解し、調査課題を設定する。	・学習のねらいを理解させ、調査学習の見通しがもてるようにガイダンスを行う。(歴史の学び方を身に付けさせる工夫)
		3 鴻巣宿について調査計画を立てる。	・課題を明確にした上で、調査計画を立てさせる。 ◎学習の見通しをもち、これからの学習について調査計画を立てている。(関)
資料収集・追究	第4～5時	4 グループで現地調査等をし、課題解決にせまる資料収集をする。 ・文化財調査(勝願寺、法要寺、鴻神社等) ・史跡調査(一里塚、鴻巣御殿、中山道等) ・商店街調査(蔵や奥行き深い店のつくり、人形店の聞き取り等) ・文献資料による調査(中山道分間延絵図、鴻巣市文化財地図、パンフレット等) ・地名の由来調査(本町、人形町、上谷等) ・古くからある祭礼調査(お十夜、夏祭り等)	・現存する神社仏閣、古くからある小売店や旅館等の現地調査、関係者や生涯学習課職員等へのインタビュー等の活動を取り入れる。(地域における人材の活用や博物館、郷土資料館などの活用) ・外に出て調査することが、困難な場合は市の歴史を調査研究している機関(教育委員会生涯学習課等)による出前授業なども考えられる。
		5 課題解決を図るため、グループ内で資料の内容を検討する。	◎調査する課題を明確にし、よく吟味して質問内容、資料の取捨選択等を考えている。(思) ●事前に課題解決にせまる質問内容をメモして、インタビューをする。また、視点を明確にし、観察したり見学したりした事象の差異点や共通点をとらえて記録する。

整理・表現	第6・7時	6 調査したことをまとめる。 ・発表方法をグループ内で検討する。 ・発表の役割を決める。 ・発表原稿を作成する。 ・作成した発表原稿をグループ内で検討する。	・課題解決が図られるようまとめさせる。 ・聞く側の立場を意識してまとめるよう配慮させる。 ◎調査した内容を他の人の考えや意見を取り入れるなどして、多面的・多角的に考察して、まとめている。(思)(技) ●私たちが住んでいる町がかつてどのような地域だったのか、イメージがわくように、自分の言葉でまとめる。(常に辞書を用意し、分からない言葉を引く。)
	第8・9時	7 グループごとに研究成果を発表する。 8 各グループの発表に対し、意見交換をする。	・中山道を中心に宿場町として発展してきた歴史や受け継がれてきた伝統や文化の特色が分かるよう、写真やイラストなど資料を用いて発表させる。 ◎写真やイラストなどを用いて、鴻巣市の歴史や文化がよく分かるように発表している。(技) ●聞く側が分かるよう自分の言葉で発表する。

(5) 資料

- ・勝願寺、法要寺、鴻神社、鴻巣御殿、御成橋、大芦氷川神社（現存する建物や遺跡等）
- ・中山道分間延絵図 第二巻 上尾 桶川 鴻巣（東京国立博物館所蔵）
- ・鴻巣市文化財パンフレット「中山道鴻巣宿と間の宿吹上」（鴻巣市教育委員会）
- ・鴻巣市文化財地図（鴻巣市教育委員会）



一里塚



脇道（吉見道）道しるべ

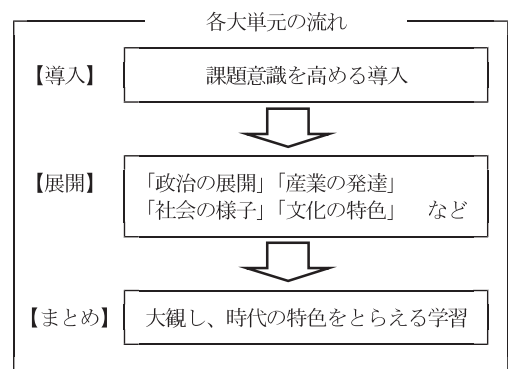


鴻巣宿起点（上谷新田）

2 内容(1)「歴史のとらえ方」ウ 時代を大観し表現する活動 ～内容(5)「近代の日本と世界」～

- (1) 単元名「近代の日本と世界」
(2) 各大単元の流れと本時について

学習指導要領には、歴史的事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明したり課題を設けて追究したり、意見交換したりするなどの学習を重視することが示され、言語活動の充実が求められている。これについては、特に歴史的分野の導入として行う時代の区分やその移り変わりに気付く学習や、各時代の特色をとらえる学習、時代の転換の様子をとらえる学習などでその趣旨を踏まえて指導を行う。このうち、各時代の特色をとらえる学習は、新設の項目で、学習した内容を活用して大観し表現する活動を通して、その時代がどのような特色をもつ時代だったのかをとらえる学習である。これは、各時代の学習のまとめとして実施することを原則とする。その際、各時代の学習の初めにおいては、その特色の究明に向けた課題意識を育成する。このような各大単元の流れを図に示すと、右のようになる。



また、特にまとめの学習では、学習した内容の比較や関連付け、総合などを通して、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目しながら、『つまりこの時代は』『この時代を代表するものは』など各時代の特色を大きくとらえ、言葉や図などで表したり、互いに意見を交換したりするなどの言語活動を展開していくことが重要である。

(3) 本時の学習

ア 目標

- 学習した内容を活用して近代を大観し表現する活動を通して、近代の日本と世界の特色を理解させ我が国の歴史の大きな流れをとらえさせる。
- 自分の言葉で表現することで、歴史について考察する力や説明する力を育てる。

イ 展開（2時間扱い）

時	主な学習内容と学習活動	・指導上の留意点 ◎評価 ●言語活動の充実	資料
第1時	1 近代の学習について振り返る。	・単元の導入で使用した人物の写真パネルや、中学校で新たに学習した人物の写真パネルなどを用いて復習させる。	人物写真パネル

第1時	2 年表を用いて、近代の出来事を「政治の展開」「産業の発達」「社会の様子」「文化の特色」「国際関係」の視点で色分けし、印象に残ったことを書きだす。	・年表で近代の出来事を確認することで、「近代の日本と世界」を大観する学習につながるようにする。 ◎近代の出来事を意欲的に色分けし、単元で身に付けた学習内容を整理している。(関)	年表 ワークシート
	3 本時の課題を確認する。 「近代とはどんな時代だったのか～時代の特徴を自分の言葉で表そう～」	・今まで学習してきた知識や概念を生かして、単元のまとめを行うことを伝える。	
展開	「近代の日本と世界」を一言または1文字で表すと、どんな言葉になるだろうか。	・これまでのノートや作成したイメージマップなどを見直しながら、自分の考えをまとめるように指示する。 ●近代の特徴を簡潔に自分の言葉で表現する。 ◎級友の意見を聞いて自分の意見を修正し、深めている。(思)	ワークシート
	4 考えた言葉を発表し合う。		
第2時	「つまり近代とはどんな時代だったのか」自分の言葉で表そう。	・全員が書けるように時間を十分に確保する。 ◎学習した内容を活用して、近代の日本と世界の特徴を理解し、近代の大きな流れをとらえている。(知)	ワークシート
	5 課題に対する自分の考えをワークシートに記述する。		
まとめ	6 自分の意見を発表する。	・意見交換を活発にして、近代の特徴を多面的・多角的にとらえられるようにする。 ●近代の日本と世界の特徴を、様々な資料から多面的・多角的に考察させ、自分の言葉で表現する。 ◎近代の特徴を、自分なりに根拠を示して、級友に伝えるように表現している。(技)	
	7 教師のまとめと評価を聞く。	・本時の活動の様子について評価する。	
	8 自己評価を行う。		自己評価カード

(4) ワークシート

<p>「近代とはどんな時代だったのか ～時代の特徴を自分の言葉で表そう～」 3年組 番氏名 _____</p> <p>1 年表で振り返ると… ☆色分けした年表を見て、次の5つの視点で書きましょう。</p> <p>— 政治の展開 — 【印象に残ったこと】 _____</p> <p>— 産業の発達 — 【印象に残ったこと】 _____</p> <p>— 社会の様子 — 【印象に残ったこと】 _____</p> <p>— 文化の特色 — 【印象に残ったこと】 _____</p> <p>— 国際関係 — 【印象に残ったこと】 _____</p>	<p>2 「近代の日本と世界」を一言または1文字で表すと、どんな言葉になるだろうか。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td style="width: 40%;">この言葉にした理由</td> </tr> </table> <p>3 級友の意見を聞いて、「自分と違う意見」や「なるほど」と思ったことを書きましょう。</p> <p>4 近代とはどんな時代だったのか。</p> <p>具体的なできごとをふまえて、自分の考えを自分の言葉で書く。書き終わったら、特に伝えたい言葉に赤ペンでアンダーラインを引く。</p> <p>「つまり近代とは…」</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>		この言葉にした理由
	この言葉にした理由		

Ⅲ 公民的分野

1 内容(1)「私たちと現代社会」 イ 物事の決定の仕方

(1) 単元名 物事の決定の仕方

(2) 単元構成の視点

この単元では、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などがあることを理解させる。ここでは、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義を考える課題として、駅の放置自転車の問題を設定した。駅は、様々な人々がそれぞれの立場で利用している身近な社会の一つである。また、放置自転車の問題は、現代社会において多くの地域で取り上げられる事例である。生徒に様々な立場で考えさせ、人々の間のトラブルを合意によって解決していくこと、その合意の内容・方法を振り返らせることによって、法やルール、契約の意義・重要性を実感をもって理解させる。そして、人間はトラブルを抱えながらも他者とともに生きていかなければならない社会的存在であることを理解させる。また、問題の解決のためには、一定の費用や時間が必要となるという経済の観点にも配慮する。

(3) 単元の目標

- ①社会生活に見られる具体的な事例を通して、対立と合意、効率と公正などの現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を身に付けさせる。
- ②人は、様々な社会集団の一員として、協力してよりよい生活を営む努力をしていることに気付かせる。
- ③契約の重要性や、それを守ることの意義及び個人の責任の重要性に気付かせる。

(4) 単元の指導計画

時間	学習課題	学習内容
第1時 (本時)	「問題（トラブル）について知る」	駅で起こった放置自転車をめぐる問題を知り、解決策をそれぞれの立場で考える。
第2時 第3時	「問題（トラブル）をどのように解決するのがよいか」	望ましい解決（合意）の仕方について考える。放置自転車をなくすための解決策を考える。また、それらを効率と公正の視点から評価する。
第4時	「つくったきまり（契約）を守ること、変えること」	市の条例（きまり）の成立から生じた新たな対立、合意を検討する。きまりの意義、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について考える。
第5時	「人はどんなかかわりをもって生きているのか」	駅の利用者や自分が所属している様々な社会集団について考えながら、人間は社会的存在であるということを理解する。また最後にまとめとして、この小単元で学習したことを、キーワード（対立・合意・効率・公正）を使いながら自分の言葉でまとめる。

(5) 本時の目標

「問題（トラブル）について知る」という学習課題のもと、駅で起こった放置自転車をめぐる問題を知り、それぞれの立場で解決策を考えさせる。

(6) 本時の展開

(熊谷市B校の例)

過程	主な学習内容と学習活動	・指導上の留意点 ◎評価 ●言語活動の充実	資料等
導入	1 学習課題を知る。 熊谷市内の駅を取り上げて授業を行います。駅周辺の放置自転車問題は、多くの町で起きています。利用者や住民がお互い気持ちよく利用するためには、どうしたらよいでしょうか。それぞれの立場になって解決策を考えてみましょう。	・1グループ6人程度で構成する。 「駅の放置自転車の問題にかかわる人々」 ①自治会長 ②通勤客 ③商店主 ④救急隊員 ⑤通学生徒 ⑥買い物客	・立場カード ①自治会長 ②通勤客 ③商店主 ④救急隊員 ⑤通学生徒 ⑥買い物客
展開	2 それぞれの立場で考える。 この駅で解決しなければならない問題は何かを考えよう。 ・グループごとに、各自が「立場カード」を1枚引き、自分の立場を決定する。 「立場カード」 ①自治会長 ②通勤客 ③商店主 ④救急隊員 ⑤通学生徒 ⑥買い物客 ・同じ立場のカードを引いた人同士で集まり、自分が抱えている問題は何かを整理する。	・それぞれの立場の視点から問題をとらえさせることで、学習に実感をもたせる。 ・「立場カード」での立場を確認する。 ①自治会長 地域のことを考え、町をきれいで住みやすくしたい。 ②通勤客 毎日自転車を駅前に放置。時間がないので仕方がない。 ③商店主 店の前の放置自転車は迷惑。しかし、中には買い物客もいる。 ④救急隊員 事故や火災のとき、放置自転車が邪魔になって活動に支障が出るのが心配。 ⑤通学生徒 駅前から少し遠いが、お金を出して、安全な駐輪場を利用している。 ⑥買い物客 ちょっとした時間だから、駅前に自転車を放置して買い物をしている。 駐輪場 駅前よりも、少し離れており不便。利用料もかかる。 市の条例 駅周辺の放置自転車に対して取り締まる。放置自転車は強制的に撤去する。 ・放置自転車による、地域の美化、商店の売り上げ、交通安全などを主な問題点としておさえる。 ・自分の利益と他人の迷惑、公共マナーなどを考えさせる。	・ワークシート ・資料 駐輪場の設置状況 熊谷市自転車等放置防止条例

過程	主な学習内容と学習活動	・指導上の留意点 ◎評価 ●言語活動の充実	資料等
まとめ	3 それぞれの主張を聞く ・グループに戻り、それぞれの立場から見えてくる問題点を主張する。 ・他の立場の人々の主張をお互いに聞く。 ・ワークシートに記入する。 ・自己評価、相互評価を行う。	●グループ内で、それぞれの立場から見えてくる問題を提案することができる。 ◎それぞれの立場が抱えている問題を、その立場になって考えようとしている。(関) ・トラブルについて、対立という見方・考え方をおさえる。 ◎本日の課題について、対立という観点でまとめている。(技)	・評価カード

(7) 資料 「物事の決定の仕方」 ワークシート

問題（トラブル）について考えよう	3年〔 〕組〔 〕番・氏名〔 〕						
<p>1 それぞれの人の立場を知ろう。</p> <p>○自分の選んだ立場カード</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 10px;"></div>	<p>2 それぞれの人が抱える問題を、聞いてまとめよう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">①自治会長</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">②通勤客</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">③商店主</td> <td style="padding: 5px;">④救急隊員</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">⑤通学生徒</td> <td style="padding: 5px;">⑥買い物客</td> </tr> </table>	①自治会長	②通勤客	③商店主	④救急隊員	⑤通学生徒	⑥買い物客
①自治会長	②通勤客						
③商店主	④救急隊員						
⑤通学生徒	⑥買い物客						
↓							
<p>○その人が抱えた問題（トラブル）は何だろう。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 60px; margin-top: 10px;"></div>	<p>3 この駅で解決しなければならない問題は何だろう。</p> <p>○自分の考え</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 10px;"></div>						
<p>資料</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> <p>駐輪場 駅前よりも、少し離れており不便。 利用料もかかる。</p> </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> <p>市条例 駅周辺の放置自転車に対して取り締まる。 放置自転車は強制的に撤去する。</p> </td> </tr> </table>	<p>駐輪場 駅前よりも、少し離れており不便。 利用料もかかる。</p>	<p>市条例 駅周辺の放置自転車に対して取り締まる。 放置自転車は強制的に撤去する。</p>					
<p>駐輪場 駅前よりも、少し離れており不便。 利用料もかかる。</p>	<p>市条例 駅周辺の放置自転車に対して取り締まる。 放置自転車は強制的に撤去する。</p>						

2 内容(4)「私たちと国際社会の諸課題」 イ よりよい社会を目指しての指導事例

- (1) 単元名 よりよい社会を目指して
(2) 単元構成の視点

社会科のまとめとして位置付けられたこの中項目では、私たちがよりよい社会を築いていくためにはどうしたらよいかについて、持続可能な社会を形成するという観点から、課題を設けて探究し、自分の考えをまとめさせ、これから社会参画していくための手掛かりを得ることをねらいとしている。その際、身近な地域の生活や我が国の取組との関連性に着目させ、世界的な視点と地域的な視点に立って探究させる。また、公民的分野で学習してきた成果の活用に加えて、地理的分野、歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、これらの分野で育成された能力や態度が、更に高まり発展するように留意する。

この単元を社会科学習のまとめとして位置付け、授業時数についても適切かつ十分に配当することが必要である。

(3) 単元の目標

- ① よりよい社会を築いていくためにはどうしたらよいかについて、持続可能な社会を形成するという観点から、課題を設けて探究し、自分の考えをまとめさせ、社会参画していくための手掛かりを得させる。
- ② 現代及び将来の世代のニーズを満たすような、持続可能な社会の形成を目指し、環境の保全、経済の開発、社会の発展の調和の必要性を理解させる。
- ③ 持続可能な社会を形成する上での、国や地方公共団体の取組、地球規模での努力や国際協力、国際協調の大切さを理解させる。
- ④ 分野全体を通して、習得した知識を活用して、社会的事象について考えたことを説明させたり、自分の意見をまとめさせたりすることにより、思考力、判断力、表現力等を身に付けさせる。

(4) 単元の指導計画 (15時間扱い)

過程	時	主な学習内容と学習活動	・指導上の留意点 ◎主な評価 ●言語活動の充実	資料等
課題把握・設定	第1時	<p>○持続可能な社会とは</p> <p>○私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき問題としてどのようなものがあるか、一人一人が考えて発表する。</p> <p>・地球環境の問題、財政、税制の問題、社会保障制度の問題、その他の様々な問題</p>	<p>・単元の導入として、「持続可能な社会」の意味を理解させる。</p> <p>・社会科のまとめとして位置付けられているため、生徒の興味・関心を高め、自ら課題を見だし、自ら学び考える主体的な学習を促す導入になるよう工夫する。</p> <p>◎よりよい社会を築いていくために解決すべき問題としてどのようなものがあるか、一人一人が考えて発表している。(関・思)</p>	持続可能な社会についてのワークシート

過程	時	主な学習内容と学習活動	・指導上の留意点 ◎主な評価 ●言語活動の充実	資料等
課題把握・設定	第2時 ・ 第3時	○「持続可能な社会」に関する多くのキーワードを出し合う。 ・これまでの地理的分野、歴史的分野、公民的分野の学習成果をまとめる。 ・まとめた中からキーワードを持続可能な社会の三要素（環境の保全・経済の開発・社会の発展）の項目で分類し、ウェブ図づくりにつなげ、課題設定の手掛かりとする。	・社会科の学習のまとめとして、「持続可能な社会の構築」という観点から課題研究を行うことを説明する。 ・調査対象として、国や地方公共団体、国際的な取組について着目させる。 ・調べるためのキーワードを挙げさせ、検索が円滑に進むようにさせる。 ◎三要素ごとに分類し、関係図（ウェブ図）にまとめている。（思）	分類のためのワークシート ウェブ図（関係図）
	第4時	全体テーマ 「よりよい社会を目指して」 ○探究する課題の決定と探究のための計画づくり 【対立と合意、効率と公正などの見方や考え方の活用】 ～計画づくりで考慮したい課題探究の視点と手順 〈第一次〉 主題解決のための取組（合意）を調べるための計画づくり ↓ 〈第二次〉 主題解決の取組と対峙、障害となっている事象（対立）を調べるための計画づくり ↓ 〈第三次〉 主題解決のための取組に無駄がなく最善のものとなっている（効率）か調べるための計画づくり ↓ 〈第四次〉 主題解決のための取組を決定した手続きや内容の公正さについて調べるための計画づくり ☆合意について効率と公正を考察する。	・自分が探究する内容が、持続可能性の基礎（世代間の公平・地域間の公平・男女間の平等・社会的寛容・貧困削減・環境の保全と回復・天然資源の保全・公正で平和な社会など）のどれにあたるか確認させる。 ・課題設定において、それが実現可能なものかどうか教師が判断を与え、実現が難しいものなら、修正を加えるように支援する。 ◎関係図から興味・関心のある事象を選択し、課題探究の見通し、計画の立案に意欲的に取り組んでいる。（関） ◎対立と合意、効率と公正などの見方や考え方を活用し、課題設定や計画の立案を行っている。（思）	課題追究プリント 探究計画カード
課題探究	第5時 ・ 第6時	○探究する課題に沿って、調査活動を行う。 ・探究計画に基づき、各自で書籍やインターネット等を活用し、校外調査などを実施し、資料を収集する。	・必要に応じて校外での聞き取り調査を行わせる。 ・説明やグラフ、図を単に載せるのではなく、相互の関連を図ることを考慮しながら資料収集を行わせる。 ●収集した情報を分析・評価し、論述する。 ◎収集した資料から課題探究に役立つ情報を選択している。（技）	文献資料 新聞記事 インターネット 電話での問い合わせ等
深化・発展	第7時 ・ 第10時	○中間発表会 ・テーマに沿って、調査した内容について、一人5分程度の発表とする。 【考えられる手法】 プレゼンテーションソフト・模造紙・OHC（実物投影機）・紙芝居・寸劇 など ・これまでの調査研究の成果を発表し、調査方法の確認、修正を行うとともに、他の生徒の発表を聞き、自分の課題追究のための参考とする。	・三分野の学習を踏まえたものになっているか、対立と合意、効率と公正などを踏まえた社会的なもの見方や考え方を理解した上での探究となっているかなどの観点から教師がコメントし、最終的なレポート作成に向け、各自の考えを見直すことができるよう支援する。 ●科学的な探究の過程や思考の過程を論理的に説明する。 ◎意欲的に発表を行うと同時に、他の生徒の発表に関心をもって聞いている。（関） ◎図や写真、統計資料などを用いながら探究課題の説明資料を作成し、発表している。（技）	発表資料 模造紙 映像資料 紙芝居 等 評価用紙
	第11時 ・ 第13時	○レポートの作成 ・各自のテーマの下に取り組んだことや、発表の内容を踏まえて、「持続可能な社会の構築のために、私たちは何ができるか」というテーマで個人の意見を論述する。 ・難解な語句は、分かりやすい言葉に置き換え、自分の言葉で表現する。	●レポートの項目として、探究のテーマ、テーマ設定の理由、探究の方法、探究の内容、探究のまとめ、参考資料等の項目を設けて記述する。 ●科学的な探究の過程や思考の過程を論理的に表現してレポートを作成する。 ◎各自の探究活動や、発表の内容を踏まえて、テーマに沿って個人の意見を自分の言葉で論述している。（技）	各自が収集した資料
整理	第14時 ・ 第15時	○まとめの討論 ・同じ探究項目ごとに小グループをつくり、「持続可能な社会」を構築するための方策について討論する。 ・討論の主な内容や討論で出された課題などを記録用紙にまとめ、グループごとに発表する。 ・「持続可能な社会」実現のためにクラスでの提言を行う。	・自らの生活を見直すとともに、現在及び将来の人類がよりよい社会を築いていくために解決すべきこととして、これらの課題を考え続けていく態度を養う。 ●互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させて討論し、提言を行う。 ◎討論を通して、「持続可能な社会」を構築するための方策について考え、提言にまとめている。（思）	記録用紙

3 評価にあたっての配慮事項

(1) 学習指導要領の改訂と社会科の評価について

今回の学習指導要領の改訂は、知・徳・体のバランスとともに、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等及び学習意欲を重視し、これらを調和的にはぐくむという趣旨を踏まえたものである。社会科の学習では、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を探究する力を育成することが求められている。

このことを踏まえ、教師がねらいや学習内容を明確にした上で、毎時間、計画的に評価を実施し、それを次時以降の指導に生かしていく「指導と評価の一体化」を図っていくことが重要である。その際、評価に関する客観性、信頼性を高めるとともに、評価規準、評価方法などの評価計画を立てておき、学習指導の過程における評価の工夫をすることも必要である。

また、各単元や毎時の目標を明確にするとともに、単元の評価規準及び毎時の具体的評価規準を適切に設定することが重要である。その際、どのように生徒の学習状況を見取っていくかという評価方法を明らかにしておくとともに、評価規準を達成できない場合にどのような指導・援助を行うかを予め準備しておくことが大切である。適切な評価規準を作成するには、学習指導要領、自校の教育課程、教材などをよく吟味しながら検討する必要がある。その際、より客観性をもたせるよう工夫していくことが大切である。社会科では、問題解決的な学習や作業的、体験的な学習に取り組むことも多い。それらの学習を評価する際、複数の教師が協力して取り組む体制をつくり、関心・意欲・態度や思考力、判断力、表現力などの評価の客観性を高めていくことも大切である。

(2) 評価方法の工夫改善

生徒の学習状況を、多様な評価方法を工夫して評価することが望まれる。社会科の特質を踏まえ、評価の目的などに応じ、評価の方法、場面、時期などを工夫し、生徒の成長の状況を総合的に評価することが重要である。

ア 評価の指導計画への位置付け

各学校は、生徒や地域の実態を考慮し、指導内容や指導方法を工夫して指導計画を作成している。その計画に沿って学習指導を効果的に進め指導と評価の一体化を図るために、評価の観点や評価方法を具体化した評価計画を指導計画の中に位置付けておくことが大切である。

社会科においても、学び方を学ぶ学習の充実という観点から、調べ方や社会的事象の見方、考え方などの育成について、生徒の成長を見取る評価が一層重要となる。具体的な方法として、質問紙法や面接法、作品分析、自己評価、相互評価、ワークシートやペーパーテスト等の多様な評価方法を組み合わせることで、生徒一人一人のよい点を生かした効果的な支援を行うことができる。

イ 評価の形態

生徒の成長の状況を総合的に評価するとともに、適切な指導を行うために、多様な評価の形態を取り入れることが大切である。

○ 生徒による自己評価

生徒がこれまでの学習の過程を振り返り、自己の学習状況を自覚することが大切である。このことにより生徒は、自己評価能力を高め、問題の解決に向かって解決方法や解決の見通しをもつなど、学習意欲を高めていくことができる。

○ 生徒による相互評価

社会科の学習では、調べ学習や討論など集団のよさを生かして学び合う機会が多い。互いに学び合うことで自己のよさに気付くとともに、他者のよさから学ぶことができる。

○ 教師による生徒の評価

生徒の思いや願いは、活動の中に表れる。したがって、教師は、生徒一人一人のよい点や可能性が発揮されているのか、つまずきはどこにあるのか等の学習状況を学習過程の随所で確認し、個に応じた指導をしていくことが大切である。また、学習の進行中における評価によって、自らの指導を振り返り、指導計画の一部変更や、既習の学習の確認等、指導の改善にもつなげていくことができる。それによって、生徒は、学ぶ喜びや学習の達成感を感じ、学習意欲をさらに高め、自信をもって学習に取り組んでいくようになる。